

平成 29 年 7 月 3 日

凸版印刷株式会社

代表取締役会長 足立 直樹 様

株式会社ストラテジックキャピタル

代表取締役 丸木 強



### 貴社の連結子会社である図書印刷について

拝啓 貴社ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

弊社は、INTERTRUST TRUSTEES (CAYMAN) LIMITED SOLELY IN ITS CAPACITY AS TRUSTEE OF JAPAN-UP (以下「ファンド」といいます。)と投資一任契約を締結しており、ファンドは貴社の子会社である図書印刷株式会社(以下「図書印刷」といいます。)の発行済株式総数の 5%超を保有しております。また、弊社自身も同社株 1,000 株を保有しております。

本年 3 月には、図書印刷の中期経営計画について、弊社の意見をお伝えいたしました。そして、先月 29 日に、図書印刷の株主総会が開催され、私共が提案した特別配当は否決されました。そこで、再度、図書印刷について貴社に弊社の意見をお伝えいたしたく、手紙を書いております。

貴社は、図書印刷の 50%超の資本を保有し、図書印刷は貴社の連結子会社です。したがって、貴社取締役の皆様は、貴社の株主のために、「貴社子会社の図書印刷に働きかけて、株主価値を向上させる」べき責務を負っていると考えます。そして、足立様

は図書印刷の取締役も兼務されておられますが、大株主・親会社の立場から子会社の取締役会に参加されておられるのだと思います。

何故、貴社が、図書印刷が公表した300億円もの投資、異常に低い3年後のROE目標1.7%等、を含む無謀な中期経営計画を認めてしまったのか、理解に苦しみます。

まず、300億円の投資のうち、少なくとも事業領域拡大の200億円の投資については、貴社として子会社の裁量に何等かの歯止めをかけるべきと考えます。まず、親会社の貴社が、貴社グループとしてどの事業領域に新規投資するかを企画し、さらに貴社のグループ内の担当部署又は担当する関係会社を決定するべきではないでしょうか。

そして、ROEについては、貴社の決算説明会で「ROEに関しては、・・・5%、さらに将来的には8%を目指していきたいと考えています。」と回答されておられる以上、図書印刷に対しても少なくとも親会社と同等の目標を持たせるべきではありませんか。

是非とも、大株主として子会社をガバナンスしていただきたいのです。

よろしく願い申し上げます。

敬具

追伸：同じ内容の手紙を金子社長、垣谷専務取締役及び独立社外取締役にもお送りしております。